



せつぶん どうして まめ をまくの 節分に

きせつ くぎ せつぶん 季節の区切りの節分

せつぶん げんざい がつ ひ かくち じんじゃ まめ ぎょうじ
節分とは、現在では、2月3日のことです。この日は、各地の神社で豆まきの行事があり
ますね。また、おうちで豆まきをする人もいます。

せつぶん はる なつ あき ふゆ くぎ ひ
もともとは、節分とは、春・夏・秋・冬の、区切りの日をいていたのです。つまり、節分
は、1年 かい ねん かい せつぶん なか ふゆ はる
は、1年に4回あったのです。1年に4回もある節分の中でも、冬から春になるときが、い
ちばん大事な節分だったようです。

むかし ふゆ お はる く ひ ねん はじ かんが
昔は、冬が終わって、春が来る日を、1年の始まりと 考えていました。つまり、2月
さいしょ せつぶん おこな まめ おおむかし ねん
最初の節分に行く豆まきというのは、大昔の日本の、1年のしめくくりの行事だったの
です。

まめ わる おに たいじ 豆は悪いことをする鬼を退治する

むかし まめ おに たいじ こうが しん むかし ひと びょうき
昔は、豆には鬼を退治する効果がある、と信じられていました。昔の人は、病気はすべ
おに かんが わる おに こ ねが まめ
て、鬼のしわざと 考えていました。そこで、悪いことをする鬼が来ないようにと願って、豆
をまいたというわけです。

せつぶん まめ ねん さいご ひ おに たいじ あたら ねん
つまり、節分の豆まきは、1年の最後の日に鬼を退治して、新しい年をむかえましよう
むかし
という、昔のおまじないのようなものだったのです。それが今でも、節分の行事として残っ
ているのです。

(監修・田代 脩)

